

# 触媒用金型の生産増強

## 大垣精工、新興国需要に対応



大垣精工が生産を増強する触媒用金型

精密金型製造の大垣精工（大垣市浅西、上田勝弘社長）は、乗用車の排ガスなどを処理する触媒用金型の生産能力を4月までに2・5倍に増強する。触媒用金型市場は、特に中国やインドでの環境規制の強化とともに成長しており、本社工場への加工機導入で大量の受注に対応する。投資額は約2億円。

### 排ガス処理 加工機に2億円投資

受注が好調なのは、排気や排水を浄化する触媒用の金型。乗用車のほか、特殊車両や大型車両、産業用など、新興国での環境規制の強化とともに今後も爆

発的に伸びる分野として注目されている。触媒は、粘度のあるセラミックスを金型に通し、幅0・2ミリの格子で微細な穴をつ

くった筒状の製品。金型は、誤差0・01ミ以内が要求されるなど高度な加工ノウハウが必要のため、約40年前からハニカム（蜂の巣）構造の金型を製造している同社には、既に国内だけでなく、中国や韓国からも引き合いがあるという。

これまでも沖縄工場（沖縄県うるま市）で月産2000万円分を生産してきたが、さらなる成長を見込んで本社工場内に専用加工機7台を新たに導入。合計で月産5000万円分に引き上げる。また、中国市場でのハイブリッド車の伸び

に伴い、電源関係の特殊部品を製造する輪之内工場（安八郡輪之内町）に約3億円を投資し、生産能力を約2倍に増強する。上田社長は「環境に絡む分野は将来、急速に、そして世界的に発展する。今後も受注動向に応じて設備を増強したい」としている。